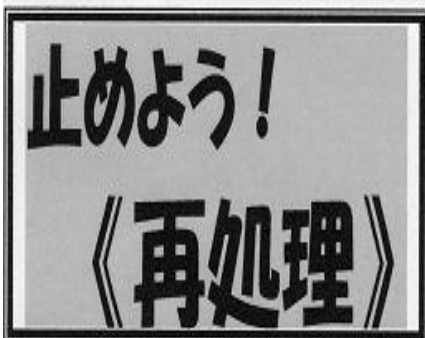


三陸の海を放射能から守る 岩手の会

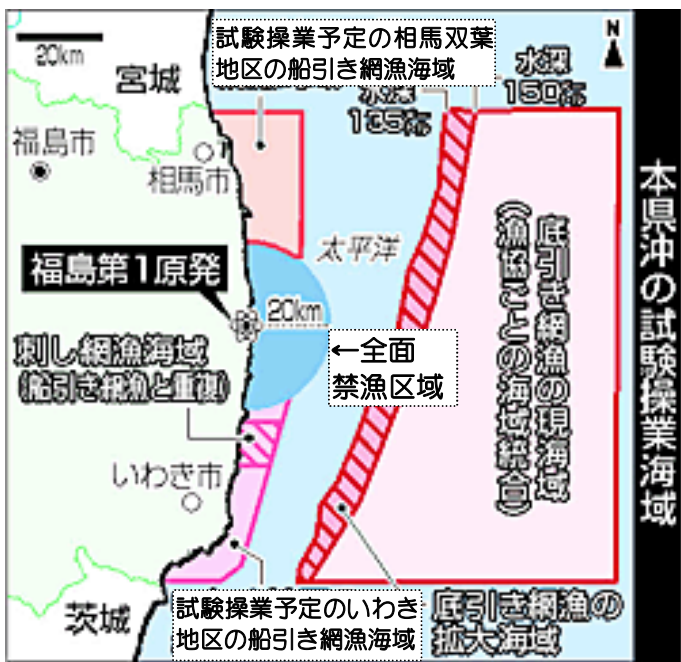
郵便振替 02240-5-102650
ホームページ《再処理/岩手の環境》
<http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm>
《まった再処理分庫》
http://briefcase.yahoo.co.jp/k_imag



《天恵の海》

2014(平成26)年
2月 14日
第137号
編集事務局 S.Oshida
TEL・FAX 019-623-1636

海洋のストロンチウム汚染明白 魚肉の汚染は？ 食卓の安全は？



地図は「福島民友」2014年1月25日号より

福島県漁連は一月二四日、いわき市で県下漁協組合長会を開き、三月から震災後初めてとなるいわき沿岸の試験操業をイシカワシラウオ、コウナゴを対象に開始することを決めました。試験操業はこれまで、水深が一三五メートル以上となる沖合海域で底引き網漁を行ってきたが、沿岸海域については汚染水問題を受けて見送られていました。漏洩が止まらない汚染水には非常に毒性の強いストロンチウム90が検出されており、市場に汚染された魚が出回る危険が増大しています。「岩手の会」が、関係機関に電話をかけて、ストロンチウム90による健康被害防護の体制について問い合わせたところ、ストロンチウム測定は全く不十分であることがわかりました。

福島原発沿岸の試験操業は中止に シラウオ、コウナゴが対象 セシウムの測定でストロンチウムも分かる？ 福島県水産課

福島県水産課

福島県水産課の担当者は「県としてはストロンチウムの測定はしていない。セシウムの測定で間に合わせている。」と答えました。「違った元素のセシウム濃度でストロンチウムの濃度がわかることはありません。しかしそれは答えず、「ストロンチウムの分析は農水省でやっているのではないか。」と答えました。

ストロンチウムの測定は難しい 農水省 農水省の消費者相談に電話して聞きました。農水省の担当者も「ストロンチウムとセシウム

ストロンチウム90の放出量	
昨年8月300トンの漏洩	30兆ベクレル
福島原発事故大気放出	140兆ベクレル
広島原爆	58兆ベクレル

「美浜の会・汚染水漏洩国際署名リーフ」
<http://www.jca.apc.org/mihama/fukushima/leaf>

止まることのないストロンチウム90の濃度上昇 敷地内観測井戸

- 2号機傍・海まで40メートル
- 2013年12月
210万ベクレル/リットル
(時事ドットコム)
- 2014年1月
16日 270万Bq/リットル
21日 310万Bq/リットル
(福島民報 2014.1.23)
- 再測定で
500万Bq/リットル
東電は昨年7月5日採取の観測用井戸水を再測定し、ストロンチウム90の濃度は90万Bq/リットルではなく500万Bq/リットルと訂正。
(朝日新聞 2014.2.7)

政府はストロンチウム90への対策を急げ!

- 1、福島県周辺（茨城県、宮城県も）海域の魚類（コウナゴ、シラス、シラウオ等）のストロンチウム90の濃度を調べ公表すること。
- 2、ストロンチウム90の体内残留性（体内半減期一八年）と危険性（骨に濃縮し骨がんや白血病の原因）を考え、厳しい濃度規制値を設定すること。
- 3、ストロンチウム90のプラシクトンから小魚、中大魚まで食物連鎖による濃縮を調査し公開すること。以上を行うまでは試験操作や魚の流通をさせないこと。
- 4、休漁中の漁業者への補償を十分に行うこと。
- 5、ストロンチウム90を閉じ込め海に放出させないこと。

ストロンチウム90汚染魚の出現

◆シロメバル 福島県沖 (37° 13' N 141° 2' E)
採取日 平成23年12月21日
ストロンチウム90 1.2 Bq/kg
セシウム134 390 Bq/kg 同137 580 Bq/kg
*同センターの過去42年間のシロメバルのストロンチウム90濃度の最高値は0.87 Bq/kgなので、その1.4倍にあたる。
(独)「水産総合研究センター」調査 公表データ
://www.jfa.maff.go.jp/j/sigen/housyaseibussitutyousakekka/pdf

いる状況にある。水産物の濃度を厳密に分析し公開した上で試験操作の是非を判断するべきではないか」と要請しました。

元素同士であり成り立ちえない理屈で、国の誠意を疑わせるものです。国の指導は、魚のセシウム濃度を調べ百ベクレル/kg以上が一地点だけであれば操業自粛、複数地点であれば出荷制限という指示です。しかし現に汚染水からストロンチウム90が高濃度で検出され、海藻や小魚類からもストロンチウム検出の報告があります。政府は国民を守る立場から早急に検討すべきです。私たちは政府に対してストロンチウム90対策を急ぐよう要請する予定です。

水メガネ

太平洋の向こうからの声

一昨年夏来日し、福島原発4号炉プールの崩壊の危険を警告する講演を行ったアメリカの原子力工学技術者アーニー・ガルダーセンさんにアメリカ在住の友人を通じて質問することが出来た。その友人は岩手育ちでバートメントに住んでいる方だ。◆一つ目の質問として「使用済み核燃料プールで事故が起きジルコニウム火災が発生すると水では消せなくなるという。

アメリカには特別の消火剤があるというがそれは何か」と聞きした。友人は「Dクラス消火剤」という、可燃性金属火災対策用に塩化ナトリウムなどで金属の表面を覆い熱を吸収する消火剤が市販されていると伝えてくれた。ならば日本でも各地の全ての使用済み核燃料プールで万一に備えて設置して置くべきだと思った。◆そして次に「現在4号炉では使用済み核燃料の取り出し作業が慎重に行われているが、万一の緊急事態に備え周辺住民の避難を考えるべきでないか？」と聞いた。それに対しガルダーセンさんは、「そうでなくても現在の状況は、人が住んでいけないところに人が住んでいる」「今、心配しているのは、汚染水問題、特にストロンチウムだ」と語り「太平洋の魚の生体濃縮もますます深刻になる」と話しておられたという。◆私たちは主要官庁に電話で実情を聞いたが、日本の農林水産省も福島県当局も、ストロンチウム90の測定さえ不十分で防護の体制は整っていない。海の向こうの心ある科学者の声を素直に聞くべきだ(尚)

福島県小児甲状腺検査 七四人が悪性ないし悪性の疑い

第一四回福島県「県民健康管理調査」検討委員会が、二月六日開催された昨年一二月末日までの検査で「甲状腺がんあるいは疑いのある人が七四人」と公表しました。この検査は、福島原発事故時に一八歳以下であった三三万人の県民を対象に、平成二三年度は浜通りの約四万一千人、二四年度は福島市など

約一四万人、二五年度はいわき市など約八万八千人に実施されたものです。

同会議で配布された資料の「甲状腺検査実施状況」については次のように記されています。
http://www.pref.fukushima.jp/imu/kenkoukanri/260207siryou2.pdf
これまでの受診者総計は二六万九三五四人。

うち二五万四二八〇人の結果が判定された。このうち嚢胞や結節の大きさから二次検査の対象とされた人は一七九六人。この二次検査の人の中で悪性あるいは悪性の疑いで細胞診を行った人は次のとおり。

甲状腺がん あるいはその疑いの住民	細胞診対象者(人)	男(人)	女(人)	手術	うち乳がん
平成23年度対象	15	5	10	*11	9
平成24年度対象	50	20	30	22	22
平成25年度対象	10	3	7	1	1
合計	75	28	47	34	32

七五人の現在の年齢は八歳〜二二歳で、平均年齢は一六・九歳。平均腫瘍径は一四・二ミリメートル。
*この二三年度調査地域の一人は、手術の結果、一人は低分化がんの疑い。一人は良性結節でした。